

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190600060		
法人名	株式会社 トラストコープ		
事業所名	グループホーム 若葉 (1階)		
所在地	岐阜県羽島郡岐南町平成2丁目139番地		
自己評価作成日	令和 4 年 10 月 7 日	評価結果市町村受理日	令和 5 年 3 月 13 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JgvsvoCd=2190600060-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JgvsvoCd=2190600060-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7
訪問調査日	令和4年11月14日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム若葉は、18名の方が共同生活をしながら暮らしていく場所です。「ゆっくり」「いっしょに」「たのしく」を常に念頭に、利用者・家族の想いを大切にしています。ここ数年は、新型コロナウイルス感染のため、従来のような活動や行事が制限されています。それでも、利用者が毎日楽しく居心地よく生活できるよう、そして今できることは何かを考えながら日常のコミュニケーションを大事にしています。

終末期は連携医・訪問看護と連携し、安楽でその人らしい最期を迎えられるよう支援しています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは国道から近くの中事業所地帯に立地しており、広い駐車場を有し、コロナ禍であっても利用者の日光浴や散歩に活用されている。長年勤務している職員も多く、理念の「ゆっくり」「いっしょに」「たのしく」は、職員間に浸透し、利用者とのコミュニケーションを重視した寄り添う支援に努めている。また、毎月の定期会議でも振り返りを行う等して、より意識してケア実践につなげている。利用者の健康維持のため、ラジオ体操を日々の日課とし、身体を動かして筋力低下・認知症進行予防に努めている。管理者は看護職員であり、主治医や訪問看護職員と日頃から連携を密にし、24時間の医療連携体制ができており、リハビリ、医療的なケアが必要な方も受け入れする体制があり、利用者・家族の安心につながっている。ホーム運営にあたり、アクティブシニアや外国人雇用にも取り組むとともに、働きやすい職場環境づくりに取り組んでおり、様々な介護人材が活躍する職場である。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念である「ゆっくり」「いっしょに」「たのしく」を職員が常に心掛けて業務遂行できるように、施設の各所に提示している。 また、月1回の定例会で実践できているか個人で振り返りをしてもらっている。	理念は玄関や事業所内に掲示され、定例会において目標に対して実施できているかについて、振り返りを行うことで、より意識して業務が行えるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナまん延により、認知症カフェや中学生の福祉体験の開催ができなかったが、10月にボランティアの方に音楽療法を依頼し、開催予定としている。	コロナ禍であり、以前より地域交流の機会は減っているが、天気の良い日に散歩に行き、近隣の方々と挨拶を交わすこともある。最近になり、音楽療法のボランティアの受け入れも再開する等、できるところから、つながりを広げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの影響で交流できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響で開催できていない。	現在、コロナ禍の影響で対面での会議の開催が制限的にならざるを得ない状況にあり、運営推進会議の開催ができていない。代替的に、本部部長及び行政機関と連携し、書面開催の準備を進めている状況である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域福祉事務所と情報共有しながら、不明な点は連絡し早期解決に向けて協力体制を整えている。	役場担当者や地域包括支援センターと連携を密にしており、運営についての疑問点があれば、連絡、相談し、助言や指導を受けられるよう協力関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は、あらゆるリスクを想定し事故防止のため行なっている。 身体拘束廃止委員会を定期的に開催し、拘束の必要性や代替方法の検討を行なっている。	ホーム内で、身体拘束をしないために、定期的に委員会を開催して、適切なサービス提供が行えているか確認・点検を行っている。玄関は防犯や車道の交通量が多く、事故の危険回避のため施錠は行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を開催し、同意のない身体拘束＝虐待と周知している。虐待と思われる事例が見過ごされていないか話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修を受講している職員がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には利用者・家族に都度、不明な点や不安な点を確認しながら説明を行なっている。理念・個人情報の取扱いや管理方法も説明し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	振込みに切り替えたため、直接聞ける場面は少ないが苦情箱を設置したり、電話連絡をする際に意見を伺っている。	家族から「会って顔が見たい」と面会希望の意見を受け取っている。職員間で話し合い、できる限り希望に沿えるよう対応策の検討に向けた取り組みを行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例会で、業務で困っている事など、自由に意見を言う場を設けている。また、業務の中で個人的に声をかけながら、業務改善に繋げている。	管理者は常に支援の現場に身を置き、日常的なケアの中で職員への声かけに努め、意見の聞き取りを行っている。また、定例会を開催しており、会議の場は意見を出し話し合う機会となり、出された意見は業務改善に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行ない、本人の希望を重視している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナの影響で外部研修の受講は難しいが、オンライン研修を職場で受講できるよう整えている。スキルアップの必要性は、日頃から伝えるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岐南町役場の方に相談しながら交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者も毎日お部屋に伺い、利用者の声に耳を傾けている。内容によっては、家族に伝えながら安心した生活を送っていただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話やメールを活用しながら、希望や要望を伺い解決している。 家族の精神的援助も大切にしながら関わっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは本人の意向を伺い、希望に添えるよう状況把握しながら、話し合いをしサービスを選択していただく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で、利用者ができることは依頼する。洗濯物を干したり畳んだり、無理のない範囲で、互いが支え合い尊重し合える関係構築をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話やメールでいつでも状況は確認できることは伝える。コロナが消息してこれば、面会緩和も考慮していく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響もあり外出はできていない。面会もできていないため、電話やメールのやり取りはできるように支援している。	コロナ禍の只中にあり、他科受診以外は外出をしていない。面会も行っておらず、家族等との関係を継続するための方法については検討中である。利用者が家族等と話したい場合には、電話やSNSを活用したり、また、文書で伝えたりしている。	現在、面会や外出が行われていない。ホームに、スマートフォンがあり、オンラインでの面会やSNSネットワークを活用して日常的に様子を写真・動画で送る等、関係継続支援の工夫に向けた取り組みに期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	感染対策をとりながら、食事やおやつ、テレビを観る時は、利用者同士が集まれるよう環境調整をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	コロナの影響で、外部の方を招き入れる機会がなかった。退居後、家族の希望があればいつでも相談にのれることを話す。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活を通して、利用者の想いや願いを聞いている。また、困難な場合は「ゆっくり」「いっしょに」「たのしく」を基本として考えている。	日常的なケア場面の中で、利用者とは話の時間を持ち、意向や思いの把握に努めている。例えば、居室や入浴時など、一人である時に声をかけたり、リビングでくつろいでいる時にコミュニケーションを取り、思いを聞いたりしている。困難な場合は、表情やしぐさから意向等の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居後も、これまでの経過を利用者本人・家族から聴取しながら、サービスに活かしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者のQOLが低下しないよう、日常生活の中から先を見据えた援助ができるよう努めている。また、それらを職員間で情報共有している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現場のスタッフに現状把握をし、利用者の想いや願いを一番優先に考えながら介護計画に反映させられるよう働きかけている。また、スタッフの気づきは大切にしている。	家族に電話や窓口で利用者の生活の様子を報告するとともに、意向を確認している。アセスメントを実施し、職員間で話し合いながら、介護計画を作成している。モニタリングを実施し、定期的又必要時に評価・見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ちょっとした気づきでも記録に残すこと、また利用者の反応や行動も情報共有のため記録に残すようにしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居に伴い、自宅が不在になる場合は利用者・役場の同意を得て管理している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方による音楽療法を開催し、リラクゼーションを図っていただく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間の医療連携体制が図れている。また、かかりつけ医の選択は自由にできることを利用者・家族にも説明している。希望がなければ、協力医療機関に依頼していく。	かかりつけ医は、従前のかかりつけ医でも協力医でも自由に選択できる。定期的なかかりつけ医の往診や訪問看護の訪問があり、歯科の往診も行っている。常勤の看護師も配置し、健康管理を行っており、利用者・家族の安心につながっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃から、看護師と共にケアに入り情報共有している。訪問看護の介入がある時は、声をかけコミュニケーションを図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、なるべく細かく日常のことやADLを伝えるようにしている。退院時は、必要な物があれば用意するなど生活環境を早急に整えるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居する段階で、利用者・家族の要望を聞いている。看取りの場合は説明と同意を得て、かかりつけ医と相談しながら利用者の状態を見て、安全安楽に過ごせるようにしている。	入居時に、重度化した場合における終末期のあり方や看取りの方針を説明し、家族の意向を確認している。病状が悪化した際は、医師等より病状説明を受け、看取りを希望される場合には、利用者・家族の意向に沿って看取りを実施している。ホームに看護師を配置し、協力医と密な連携を取り、利用者の状況が変化する都度、話し合いを行い、支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	フローチャートを作成し、その通りに実践できたかどうか振り返りを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難経路は、見やすい場所に提示している。適宜、マニュアルの見直し、改定を行っていく。	年2回の避難訓練を消防署の協力を得て利用者と共に実施し、避難経路の確認、避難誘導、連絡・報告、消火器の使い方等、職員が動き方を体得できるように訓練している。防火設備の点検を行っており、水、食糧、オムツ等の備蓄もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個別性を大切にしながら、その方に合わせた時間のトイレ誘導を行なっている。	一人ひとりの生活歴から、利用者の大切にしていること、誇りにしていることを重んじ、人格を傷つけないケアに心がけている。本人の気持ちを第一に考え、さりげない言葉かけや対応をする等、プライバシーの配慮に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話を大切にしながら、利用者の思いが聞けるような関りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出することは難しいが、家内では本人のペースを大切にしながら無理強いないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お風呂上りや朝は、鏡を見ていただき、身なりを整えたり、自分で洋服選択してもらっている。 理美容は毎月1回来てもらえるよう調整している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の前には、メニューを伝えている。 歩行できる方は、食後の後片付けを依頼している。	食事前にメニューの説明をする等、食事が楽しみなものになるよう工夫している。利用者それぞれの能力、関心等に応じてテーブル拭きや配膳、後片づけ等、職員と共に役割を担っていただいている。また、季節ごとの行事食や誕生会のおやつ等、様々な催し物での食事も楽しみなものとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、摂取量を確認し記入している。摂取量が低下してきた場合は、かかりつけ医に相談し栄養補助食品を取り入れたりしている。 嚥下状態も確認しながら食事形態を検討している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者に合わせた口腔ケア物品を用意して、清潔にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンをつかみ、個別にトイレ誘導を行なっている。	トイレでの排泄を大切にし、排泄の自立支援をしている。排泄チェック表を記録し、排泄リズムやしぐさ・様子から、自尊心に配慮して、さりげない声かけに心がけ、トイレ誘導等を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況は、経過記録を通して把握できるようにしている。また便秘にならないように、水分摂取は積極的にとってもらうように働きかけています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1人の入浴時間は設定せず、利用者に合わせて時間を決めていきます。入浴拒否をされる時は、無理強いせず、入りたい気持ちになればすぐに、入れるよう支援している。	入浴は週2回を原則に、シャワー浴や清拭も実施しつつ、利用者の身体状態・状況に合わせた支援を行っている。入浴を嫌がる人は、時間や人を変えたり、無理強いせず、日にちの変更等、柔軟に対応している。入浴後は保湿も行っている。柚子湯や菖蒲湯等で季節感を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡をとりながら、利用者のペースで過ごしていただく。その他の時間は、フロアで談笑や家事の手伝いをしていただく。1人で過ごす時間も大切にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	近くの薬局で、一元管理していただいている。薬剤が変更になった場合や、薬剤についての問い合わせなど、迅速に対応していただけや服薬のリスク回避に繋がっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の好きなことや興味のあることを把握し、生活の中に組み込めるようにしている。体操や脳トレも取り入れながら、めりはりのある時間も作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で、外出できていない。会話の中で、行きたい場所などを聞きながら今後の検討材料としていきたい。	コロナ禍の影響で外出を自粛しているため、天気の良い日などは、広い駐車場を活用し、気分転換に外気浴を行っている。駐車場に出て談笑する利用者の方々は表情も明るく、笑顔が見える。また、コロナ感染予防をして短時間であるが、桜見物や買い物に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で金銭管理できる方は、2000円/月渡して管理していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話やメールは自由にできることを利用者・家族に伝えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間はシンプルにし、安全を優先にして考えている。壁には、季節を感じられるよう手作りの作品を掲示している。	リビングは空気清浄機・加湿器が設置し、室温・湿度が保たれた快適な空間であり、利用者がそこかしこでつろいでいる。広いホールでは、音楽療法等で身体を動かし、軽快なリズムで楽しいひと時を過ごしている。また、室内は掃除が行き届き、清潔感ある環境整備ができています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ鑑賞がしやすいテーブル配置になっている。ベンチ風の椅子を置き、気の合った方同士で談笑しやすくしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が使用していた家具を持ち込むことができるようにし、その人らしい部屋、配置を心掛けている。	ベット、整理タンスがある部屋に、持込の衣装ケース・衣類がハンガーに掛けられ、整理されている。家族の写真が写真立に入り、タンスの上に飾られ、思い出の品々が並んでいる。利用者それぞれの生活スタイルや個性が感じられる落ち着いた居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒・転落を回避するため、物の配置は歩行する所には置かない。利用者が使用する物には、名前を記入させていただき紛失することないように管理している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190600060		
法人名	株式会社 トラストコープ		
事業所名	グループホーム 若葉 (2階)		
所在地	岐阜県羽島郡岐南町平成2丁目139番地		
自己評価作成日	令和 4 年 10 月 7 日	評価結果市町村受理日	令和 5 年 3 月 13 日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム若葉は、18名の方が共同生活をしながら暮らしていく場所です。「ゆっくり」「いっしょに」「たのしく」を常に念頭に、利用者・家族の想いを大切にしています。ここ数年は、新型コロナウイルス感染のため、従来のような活動や行事が制限されています。それでも、利用者が毎日楽しく居心地よく生活できるよう、そして今できることは何かを考えながら日常のコミュニケーションを大事にしています。  
終末期は連携医・訪問看護と連携し、安楽でその人らしい最期を迎えられるよう支援しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JgvoosvCd=2190600060-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JgvoosvCd=2190600060-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐南後見センター		
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7		
訪問調査日	令和4年11月14日		

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念である「ゆっくり」「いっしょに」「たのしく」を職員が常に心掛けて業務遂行できるように、施設の各所に提示している。 また、月1回の定例会で実践できているか個人で振り返りをしてもらっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナまん延により、認知症カフェや中学生の福祉体験の開催ができなかったが、10月にボランティアの方に音楽療法を依頼し、開催予定としている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの影響で交流できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響で開催できていない。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域福祉事務所と情報共有しながら、不明な点は連絡し早期解決に向けて協力体制を整えている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は、あらゆるリスクを想定し事故防止のため行なっている。 身体拘束廃止委員会を定期的に行なっており、拘束の必要性や代替方法の検討を行なっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を開催し、同意のない身体拘束＝虐待と周知している。虐待と思われる事例が見過ごされていないか話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修を受講している職員がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には利用者・家族に都度、不明な点や不安な点を確認しながら説明を行なっている。理念・個人情報の取扱いや管理方法も説明し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	振込みに切り替えたため、直接聞ける場面は少ないが苦情箱を設置したり、電話連絡をする際に意見を伺っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例会で、業務で困っている事など、自由に意見を言う場を設けている。また、業務の中で個人的に声をかけながら、業務改善に繋げている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行ない、本人の希望を重視している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナの影響で外部研修の受講は難しいが、オンライン研修を職場で受講できるよう整えている。スキルアップの必要性は、日頃から伝えるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岐南町役場の方に相談しながら交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者も毎日お部屋に伺い、利用者の声に耳を傾けている。内容によっては、家族に伝えながら安心して生活を送っていただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話やメールを活用しながら、希望や要望を伺い解決している。 家族の精神的援助も大切にしながら関わっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは本人の意向を伺い、希望に添えるよう状況把握しながら、話し合いをしサービスを選択していただく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で、利用者ができることは依頼する。洗濯物を干したり畳んだり、無理のない範囲で、互いが支え合い尊重し合える関係構築をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話やメールでいつでも状況は確認できることは伝える。コロナが消息してれば、面会緩和も考慮していく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響もあり外出はできていない。面会もできていないため、電話やメールのやり取りはできるように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	感染対策をとりながら、食事やおやつ、テレビを観る時は、利用者同士が集まれるよう環境調整をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	コロナの影響で、外部の方を招き入れる機会がなかった。退居後、家族の希望があればいつでも相談にのれることを話す。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活を通して、利用者の想いや願いを聞いている。また、困難な場合は「ゆっくり」「いっしょに」「たのしく」を基本として考えている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居後も、これまでの経過を利用者本人・家族から聴取しながら、サービスに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者のQOLが低下しないよう、日常生活の中から先を見据えた援助ができるよう努めている。また、それらを職員間で情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現場のスタッフに現状把握をし、利用者の想いや願いを一番優先に考えながら介護計画に反映させられるよう働きかけている。また、スタッフの気づきは大切にしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ちょっとした気づきでも記録に残すこと、また利用者の反応や行動も情報共有のため記録に残すようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居に伴い、自宅が不在になる場合は利用者・役場の同意を得て管理している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方による音楽療法を開催し、リラクゼーションを図っていただく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間の医療連携体制が図れている。また、かかりつけ医の選択は自由にできることを利用者・家族にも説明している。希望がなければ、協力医療機関に依頼していく。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃から、看護師と共にケアに入り情報共有している。訪問看護の介入がある時は、声をかけコミュニケーションを図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、なるべく細かく日常のことやADLを伝えるようにしている。退院時は、必要な物があれば用意するなど生活環境を早急に整えるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居する段階で、利用者・家族の要望を聞いている。看取りの場合は説明と同意を得て、かかりつけ医と相談しながら利用者の状態を見て、安全安楽に過ごせるようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	フローチャートを作成し、その通りに実践できたかどうか振り返りを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難経路は、見やすい場所に提示している。適宜、マニュアルの見直し、改定を行なっていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個別性を大切にしながら、その方に合わせた時間のトイレ誘導を行なっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話を大切にしながら、利用者の思いが聞けるような関りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出することは難しいが、家内では本人のペースを大切にしながら無理強いしないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お風呂上りや朝は、鏡を見ていただき、身なりを整えたり、自分で洋服選択をしてもらっている。 理美容は毎月1回来てもらえるよう調整している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の前には、メニューを伝えている。 歩行できる方は、食後の後片付けを依頼している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、摂取量を確認し記入している。摂取量が低下してきた場合は、かかりつけ医に相談し栄養補助食品を取り入れたりしている。 嚥下状態も確認しながら食事形態を検討している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者に合わせた口腔ケア物品を用意して、清潔にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンをつかみ、個別にトイレ誘導を行なっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況は、経過記録を通して把握できるようにしている。また便秘にならないように、水分摂取は積極的にとってもらうように働きかけています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1人の入浴時間は設定せず、利用者に合わせて時間を決めています。入浴拒否をされる時は、無理強いせず、入りたい気持ちになればすぐに、入れるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡をとりながら、利用者のペースで過ごしていただく。その他の時間は、フロアで談笑や家事の手伝いをさせていただく。1人で過ごす時間も大切にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	近くの薬局で、一元管理していただいている。薬剤が変更になった場合や、薬剤についての問い合わせなど、迅速に対応していただけたことや服薬のリスク回避に繋がっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の好きなことや興味のあることを把握し、生活の中に組み込めるようにしている。体操や脳トレも取り入れながら、メリハリのある時間も作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナの影響で、外出できていない。会話の中で、行きたい場所などを聞きながら今後の検討材料としていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で金銭管理できる方は、2000円/月渡して管理していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話やメールは自由にできることを利用者・家族に伝えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間はシンプルにし、安全を優先にして考えている。壁には、季節を感じられるよう手作りの作品を掲示している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ鑑賞がしやすいテーブル配置になっている。ベンチ風の椅子を置き、気の合った方同士で談笑しやすくしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が使用していた家具を持ち込むことができるようにし、その人らしい部屋、配置を心掛けている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒・転落を回避するため、物の配置は歩行する所には置かない。利用者が使用する物には、名前を記入させていただき紛失することないように管理している。		